

## 歴博くらしの植物苑だより

第11回『日本の植物文化を語る』12月16日(土) 13:30~本館講堂

「花木分化の粹—ツバキとサザンカの世界—」 箱田直紀 (恵泉女学園大学)

第95回『くらしの植物苑観察会』 1月27日(土) 13:30~ くらしの植物苑

「水田と焼畑」 西谷 大 (本館研究部考古研究系)

# 冬の華・サザンカ 開催中

12月26日(火)まで

### 江戸サザンカ

東京駒込の芦沢弥五郎は、江戸時代のサザンカ品種が消滅していくのを憂い品種の収集を始め。1989年までの20年間に集めたものを『茶梅花大集』として刊行した。この大集は江戸時代に発達したサザンカと、その後を結ぶ資料として注目される。記載95品種中62品種が現存する。その一部を紹介します。



見驚 (けんきょう)



御美衣 (おみごろも)

### 肥後サザンカ

熊本(肥後)で門外不出として栽培されていた1グループは、歴史的にも意味があり独自のものであるとして、植物学者の三好学は肥後サザンカとして命名しました。



色も香も (いろもかも)



桜月夜 (さくらづきよ)



トチノキ (トチノキ科トチノキ属)

葉もすっかりと落ち、冬芽や葉痕の観察にいい季節になりました。トチノキの冬芽は大きく見やすいです。冬芽には油脂があり、ネバネバとしています。動物に冬芽を食べられないための戦略でしょう。



マンリョウ (ヤブコウジ科ヤブコウジ属)

樹の陰に成育する常緑の低木で、青い葉と赤い実でお正月の飾り物に、観賞用に栽培されています。



ホソバヒイラギナンテン (メギ科ヒイラギナンテン属)

中国原産でヒイラギナンテンに似ています。常緑の低木で、ヒイラギナンテンは4月頃に花が咲きますが、11月頃に開花します。中国で十大功劳薬といわれるヒイラギナンテンと同じに薬効があります。



## 紅葉の仕組み

紅葉のきれいな頃です。黄葉と紅葉とがあります。黄葉化は落葉前に葉緑体のクロロフィルが分解されて葉の緑が消えるため、もともとあった色が見えるようになったことによります。紅葉化は葉柄の基部に離層ができ、葉で作られていた糖やアミノ酸からアントシアニン・フラボンの酸化物など液胞中につくられて紅色になったものです。同時に両者が見られるものもあります。

